

嬉野小学校学校訪問記

22. 8. 31

藤津教育事務所 橋本 良子

嬉野小発！明日の国語授業づくり

「嬉野小国語夏季研修会」に参加しました。この研修会は、新学習指導要領完全実施、言語力の向上を目指しての提案授業あり、筑波大学附属小学校の二瓶弘行先生をお迎えしての模範授業あり、シンポジウムありと魅力が盛りだくさんの内容で、県内外から約200名の方が参加されていました。

提案授業は、6年生の説明文の指導でした。嬉野小学校の目玉である「対話活動Ⅰ・Ⅱ」を取り入れて、説明文の読み方の「方法」を意識させる学習活動が仕組みれており、他の場面でも使えることができるように「活用」に主眼をおいた授業づくりをされていました。子どもたち自身の言語力を使って「読む方法」や「読みの力」をつけるという、まさに新しい学習指導要領で求められている内容になっていました。

〈提案授業より〉



「しかけ」のある教材の提示

教材文「魚の色ともよう」（東書3年）を結論が書かれている最終段落を削除して子どもたちに提示し、筆者の主張を推論し、自分なりの考えを表現させる「しかけ」がありました。はじめは段落が欠如していることに気がつかなかった子どもたちも序論・本論・結論に分ける活動を通して「問い」の文に対する答えがないことに気づいていきます。

「対話活動Ⅰ・Ⅱ」を使った指導

全員が自分の考えを持つことができるための対話題1（補助的な発問）と読みを深めるための対話題2（中心的な発問）を取り入れて、思考力や表現力の育成をねらっています。どの子どもも、自分と向き合い、考えをしっかりと書いています。そして、隣の友達と考えを交流しています。

